

月刊 **TENGA** 2022
12.1
第四十七号

特集

身体障がいがある方の 性生活・恋愛事情に 関する調査

354人の
リアルボイス

障がい学・感情社会学の視点から解説

月刊 TENGA web版はこちら

<https://www.tenga.co.jp/topics/category/g-tenga/>



身体障がいがある人を対象に、「恋愛・性」に関する調査を実施

恋愛の悩みから性生活に必要なサポートまで、354人のリアルボイス

今回の月刊TENGAでは、12月3日～12月9日の「障害者週間」に先駆け、身体障がいがある方の恋愛事情や性生活に関する調査を行いました。

これまでTENGAでは、「性を表通りに、誰もが楽しめるものに変えていく」というビジョンのもと、障がいによってTENGAが自分で使用できない方に向けた補助具の製作や提供を行ってきたほか、障がいがある方を支援する「able! project」を始動してきました。また、2022年5月には埼玉県川越市に就労継続支援B型事業所「able! FACTORY」を開設し、障がいのある方の就労の支援も開始しています。

本レターに記載の情報は、画像素材を含め、ご自由にお使いいただけます。

その際は、「出典：月刊TENGA第47号」とお書き添えください。可能な限り、

<https://www.tenga.co.jp/topics/category/g-tenga/>へのリンクも掲載いただけますと有難いです。

グラフ画像ダウンロードURL：<https://www.tenga.co.jp/gekkan/gekkantenga47.zip>

目次

Chapter1 そもそも「身体障がい」とは？（P2～）

Chapter2 身体障がいがある方354人に聞いた、恋愛事情・性生活に関する調査結果（P4～）

Chapter

1

そもそも「身体障がい」とは？

障がいがある方の恋愛事情や性生活について知るにあたり、まずは障がいの違いについて見ていきましょう。

障がいの状態や、障がいがある方の置かれている環境はさまざまであり、「障がい」とひと言でくくることはできません。生まれつき障がいがある先天性の方、事故や病気による障がいがある後天性の方。障がいの種類や、人それぞれ抱える悩みや不満には違いがあるそう。

例えば、「階段」に対して感じる不便さひとつとっても、障がいの種類によって内容が異なります。肢体不自由で車いすを使われている身体障がいの方は、階段を一人で降りることが物理的に難しく、知的障がいがある方は、階段を物理的に降りることはできても、その階段が降りていい安全な階段かわからないという不便さを感じるかもしれません。

近年のコロナ禍による不便さもさまざまです。視覚障がいがある方は人との接触を回避するために導入されたセルフレジの操作をすることが難しく、聴覚障がいがある方はマスクによって口元の動きや表情が見えづらくなったためにコミュニケーションが難しくなりました。知的・発達障がいがある方は、感覚過敏やこだわりによりマスクの着用や手洗いをすることが難しく、免疫障がいを含む内部障がいがある方は、もともと感染症に弱く、普段以上に外出に制約が出てしまったなど、障がいによって生じる悩みはさまざまです。

このように、一口に障がいと言っても、その種類によって困っていることや求めていることが全く異なります。

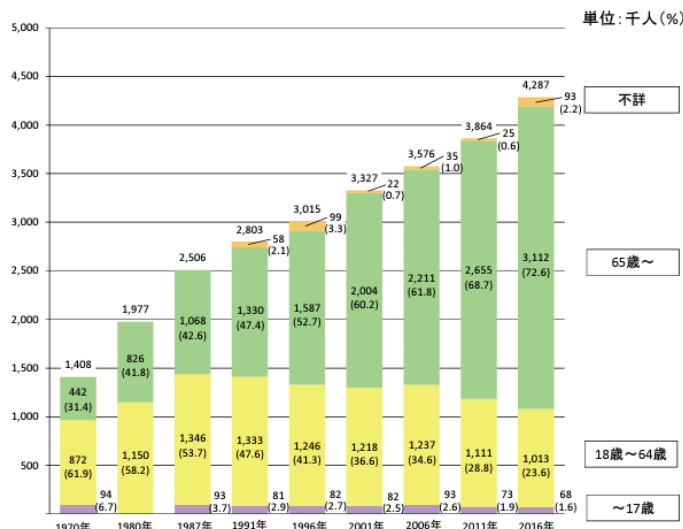
そこでまずは、今号で着目する身体障がいについての、基礎的な情報をご紹介します。

■ 障がいの種類について

障がいは「**身体障害**」、「**精神障害**」、「**知的障害**」の3つに区分され、法律に基づき、それぞれ「**身体障害者手帳**」、「**精神障害者保健福祉手帳**」、「**療育手帳**」の交付を受け、各種の福祉サービスを受給することができます。

障がい者の概数は、身体障がい者（身体障がい児を含む）436万人、精神障がい者419万3千人、知的障がい者（知的障がい児を含む）109万4千人となり、国民のおよそ7.6%に何らかの障がいがあるとわかります。※1

■ 図表2 年齢階層別障害者数の推移（身体障害児・者（在宅））



注1：1980年は身体障害児（0～17歳）に係る調査を行っていない。
 注2：四捨五入で人数を出しているため、合計が一致しない場合がある。
 資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」（～2006年）、厚生労働省「生活のしづらさなどに関する調査」（2011・2016年）

※1 内閣府「令和4年版 障害者白書」参考資料（P213・P217）

<https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/r04hakusho/zenbun/pdf/ref1>

その中でも身体障がいとは、先天的あるいは後天的な理由（病気や事故の後遺症など）で、体の一部に障がいが生じている状態のことをいいます。

身体障がいの区分は、「**身体障害者福祉法**」に基づき、それぞれ等級が1～7級まで定められています。※2

7級の障がいは、単独では「**身体障害者手帳**」の交付対象にはなりません。7級の障がい2つ以上重なる場合には、「**身体障害者手帳**」の交付を受けられます。

「**身体障害者手帳**」の交付対象は、「**身体障害者福祉法別表**」に掲げる身体上の障がい（右の表を参考）が一時的ではなく、**永続することとされています。**

身体障害者手帳の障害分類

視覚障害

聴覚・平衡機能障害

音声・言語・そしゃく障害

肢体不自由

（上肢不自由、下肢不自由、体幹機能障害、脳原性運動機能障害）

心臓機能障害

じん臓機能障害

呼吸器機能障害

ぼうこう・直腸機能障害

小腸機能障害

HIV免疫機能障害

肝臓機能障害

※2 参考資料：厚生労働省 身体障害者障害程度等級表

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/shougaihatechou/dl/toukyu.pdf>

▶ 本件に関するお問い合わせ先

月刊TENGA 広報事務局 | 株式会社パブリックグッド内

TEL : 03-6416-3268 / FAX : 03-6416-3269 / MAIL : tengapr@publicgood.co.jp 担当：片倉、森下

身体障がいがある方354人に聞いた、 恋愛事情・性生活に関する調査結果

「障がいがある方の性」について語ることは、当事者においても、第三者においてもタブーとされる風潮があります。一方で、立教大学コミュニティ福祉学研究科の研究論文※3によると、『自立生活前の「あきらめ」のなかで一番多かったのは「性・異性・結婚」に関する「あきらめ」であった』という報告もされています。なかなか語られてこなかった「性」について、実際にはどのような課題があるのでしょうか。

※3 出典：金在根『障害者の「あきらめ」の構造と介助関係に関する研究 —— 肢体不自由者の自立生活前・後の「あきらめ」の変容に着目して ——』
https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=11334&item_no=1&page_id=13&block_id=49

TENGAは今回、身体障がいがある方354人を対象に調査を行いました。またその結果をもとに、障害学・感情社会学の専門家である、慶應義塾大学文学部教授の岡原正幸先生にもコメントをいただきました。

■ 障がいゆえの悩みが1位。一方で障がいの有無を超えた悩みも

Q. 恋愛について悩みはありますか？当てはまるものすべてにお答えください

順位	悩み	%
1位	障がいを理由にうまくいかなかった経験がある	31.1%
2位	好きな人にどうアプローチしていいかわからない	30.2%
3位	自分の体（容姿やにおいなど）が原因で恋愛に積極的になれない	25.1%
4位	モテない	13.6%
5位	好きな人ができない	12.7%
6位	パートナー（彼氏・彼女）ができたことがない	12.1%
7位	パートナー（彼氏・彼女）がなかなかできない	11.9%
8位	新型コロナ感染拡大で出会いがない	9.0%
9位	失恋した時の折り合いの付け方がわからない	8.5%
9位	結婚したいのにできない	8.5%

恋愛の悩みの1位は、「障がいを理由にうまくいかなかった経験がある」でした。悩みの例として、「デートに行くにもバリアフリーか否かなど気をつかう」「恋愛はしたいが、自分のことが相手に負担になるんじゃないかと躊躇する」などの自由回答が挙がっています。

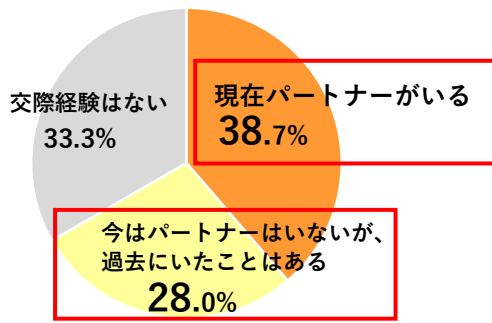


TENGA広報
原田

僅差で2位だった「好きな人にどうアプローチしていいかわからない」（30.2%）は、過去にZ世代健常者に向けて行った「恋愛・性に関する調査」※4で、1位（28.6%）にランクインしていました。また2位～7位までにあがった回答は、Z世代健常者と同様のランキング順でした。このように、障がいの有無を超えた普遍的な悩みも多いことが伺えます。

※4 株式会社TENGA『月刊TENGA39号 Z世代のリアルなSEX・恋愛事情を大調査』にて行った調査（2021年、n=420）

Q. あなたの交際経験について教えてください
n=354



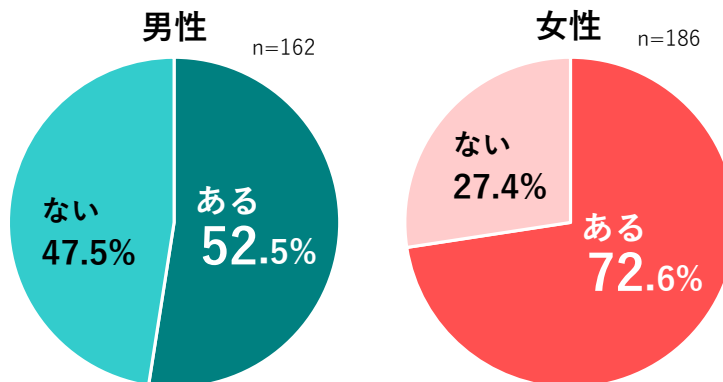
Q. パートナーとの出会いの場はどこですか？
これまでのパートナーであればまるものすべてにお答えください

n=236 | パートナーがいたことがある人

順位	場所	%
1位	学校	33.1%
2位	職場	27.5%
3位	友人・知人からの紹介	18.6%
4位	趣味の活動を通して	18.2%
5位	TwitterなどのSNSを通して	17.8%
6位	マッチングアプリ	14.8%
7位	病院	5.5%
8位	出会い・婚活パーティ	4.7%
8位	ナンパ	4.7%
10位	Facebookのコミュニティ	1.7%

■セックス、マスターベーションは半数以上が経験あり。半数以上が満足

Q.セックスの経験はありますか？

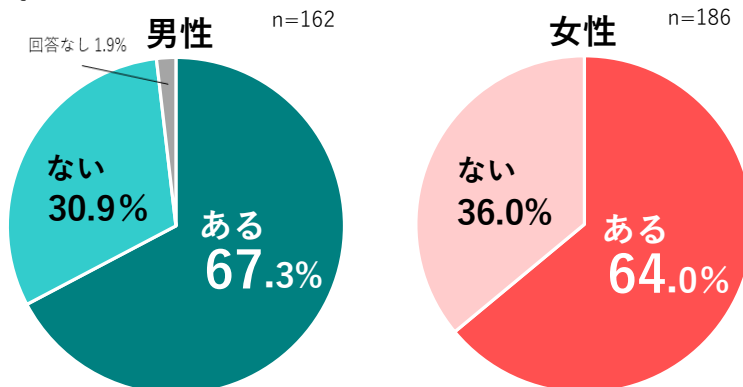


※その他の性別は回答者に含まれません

セックスの経験率は全体で63.0%でしたが、**男女差があり、女性の方が約2割高い割合**でした。

また**セックスの満足度**について「満足している」もしくは「まあ満足している」と回答した方の割合は、**男性が63.5%、女性が53.3%**でした。

Q.マスターベーション（セルフプレジャー）の経験はありますか？



※その他の性別は回答者に含まれません

マスターベーション（セルフプレジャー）の経験率は、ともに6割を超えていました。

また**マスターベーション（セルフプレジャー）の満足度**について「満足している」もしくは「まあ満足している」と回答した方の割合は、**男性が67.0%、女性が64.7%**でした。



岡原先生

■セックス経験の男女差について

いまだに恋愛や性の場面においては「男性の方が能動的であるべき」という風潮があるなかで、障がいのある男性は能動性を発揮しづらく、セックスまで至らないという傾向があるのではないのでしょうか。

また、女性のセックス経験者の比率が男性よりも高いのは、男女でセックスの定義が異なるからかもしれません。男性には、ペニスを挿入しなくてはならない、挿入すべき、というプレッシャーがある一方、**女性の場合、「挿入を伴わない」体の接触もセックスと認識しているケースも多い**と思います。

「あまり満足していない」もしくは「満足していない」と答えた方から、その理由として最も多く挙げたのは「**自分の性欲を持って余している**」(26.3%)でした。次いで多かったのは、「性的な行為がうまくできない(触れない、快感を感じられない など)」「性的快感を感じられない」(25.0%)という理由でした。

■性の話は友人にもしづらく、相談できる場所が欲しい

<性介助経験率は男女ともに低い結果に>

性介助経験の有無を聞いたところ、全体で4.8%と低い結果となりました。男女別だと、男性は6.8%、女性は3.2%でした。

<性の話ができる相手は「いない」が最多>

Q. 性の話を相談できる人はいますか？

【男性TOP5】			【女性TOP5】		
順位	相手	%	順位	相手	%
1位	いない	42.0%	1位	いない	44.6%
2位	友人	30.2%	2位	友人	38.2%
3位	ネット上の知人	24.1%	3位	パートナー・恋人	22.6%
4位	パートナー・恋人	11.7%	4位	両親	11.3%
5位	介助者・ヘルパー	6.8%	4位	兄弟	11.3%
			6位	ネット上の知人	9.7%

※その他の性別は回答者に含まれません

性の相談では男女ともに「いない」が最多となりました。特に**女性は、恋愛に関する相談では「友人に恋愛の相談をする」と答えた方は7割を占めていましたが、性の相談では4割を下回る結果に。**

しかし、「性の話をして何か変わったことはありますか？」という問いには**66.0%が「気持ちが楽になった」と答え、8割以上がポジティブな回答**をしていました。



岡原先生

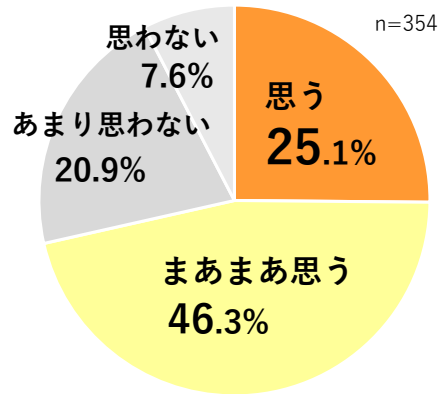
■友人に、恋愛相談はできても、性の相談はしづらいのはなぜ？

健常者のように、外に出て気軽に友達を作れるような環境ではないことから、友人との関係にはとても気を遣っている方も少なくないでしょう。そのため、恋愛の相談はできても、**性の話をすると嫌われるのではないか、関係性が変わってしまうのではないか、**と考えて慎重になってしまうのかもしれませんが。

さらに、性の悩みは家族や介助者など身近な人には相談しにくいものです。障がいのある方が**気兼ねなく性の悩みを相談できる場所や、プラットフォーム、コミュニティなどが今後必要になってくる**と考えています。

<「性の話を相談したい人」が7割>

Q. 性の話を相談できる場所が欲しいと思いますか？



「性の話を相談できる場所が欲しいか」という設問では、約7割が「欲しい」と回答しました。中でも「性の話を相談できる相手がない」と答えた方は約7割が「思う」「まあまあ思う」と答えるなど、需要が高いことがわかります。

<性の情報源は男女差あり>

Q. 性についての情報をどこで得ていますか？当てはまるものをすべてお答えください

【男性TOP5】 n=162			【女性TOP5】 n=186		
順位	項目	%	順位	項目	%
1位	アダルトビデオ	68.5%	1位	web記事	44.6%
2位	web記事	33.3%	2位	友人や知人	26.3%
3位	Twitter	29.0%	3位	高校までの性教育に関する授業	23.7%
3位	YouTube	29.0%	4位	Twitter	18.8%
5位	友人や知人	19.1%	5位	雑誌	18.3%

※その他の性別は回答者に含まれません

性の情報源としては、男性の約7割は「アダルトビデオ」、女性は「web記事」と「友人や知人」、さらに「学校教育」が上位にありました。



TENGA広報
原田

男女差の大きい項目は、「アダルトビデオ」で、男性68.5%に対して女性14.5%でした。一方、女性は「高校までの性教育に関する授業」が3位（23.7%）にあがっているのが特徴的でした。男性は教育と回答した割合は少なく9.9%でした。男性は『AV & SNS』、女性は『友人 & 教育 & メディア』というのは、月刊TENGA Z世代号※5で実施した健常者向けの調査結果とほぼ同じ傾向でした。

※5 株式会社TENGA『月刊TENGA39号 Z世代のリアルなSEX・恋愛事情を大調査』（2021年、n=420、<https://www.tenga.co.jp/topics/16291/>）

■ 身体障がいがある方のアダルトグッズの使用率は男性約5割、女性約4割

<セクシャルウェルネス度の自己採点>

セクシャルウェルネスな状態（自分の性的欲求を肯定し、楽しめて、心身が満ち足りている状態）に関しては、2022年4月に行った健常者を対象とする別の調査※6の女性の得点より、身体障がいがある女性の得点の方がやや高い結果となりました。

※6 株式会社TENGA『月刊TENGA45号 「フェムテック」「セクシャルウェルネス」「プレジャーギャップ」これひとつで丸わかり！』（2022年、n=800、<https://www.tenga.co.jp/topics/17043/>）

▶ 本件に関するお問い合わせ先

月刊TENGA 広報事務局 | 株式会社パブリックグッド内

TEL : 03-6416-3268 / FAX : 03-6416-3269 / MAIL : tengapr@publicgood.co.jp 担当 : 片倉、森下

Q. 「セクシャルウェルネスな状態（自分の性的欲求を肯定し、楽しめて、心身が満ち足りている状態）」を100点満点とした場合、あなた自身のセクシャルウェルネスの度は、0点～100点のうち何点ですか？



■セクシャルウェルネスの度合の男女差について

先述の通り、男性は、女性に比べて能動的に動くべきという考えや、「挿入」が前提のセックスというのがいまだにスタンダードなので、**思うような行為ができず健康者よりも低い値になっている**と考えられます。

一方で女性の場合、セクシャルウェルネスな状態が健康者よりも高い理由としては、**もともとの期待水準が低いから**かもしれません。「障がいを持っているけれどセックスができた」、「期待していなかったけれど、セクシャルな行為をする機会に恵まれた」ということだけで満足感を感じて、得点を高つけた方もいたのではないかと思います。加えて、障がいがある女性のパートナーである男性は、自分の欲求を満たすだけの身勝手なセックスではなく、相手の体に注意し気遣いのあるセックスを行っている可能性も考えられます。



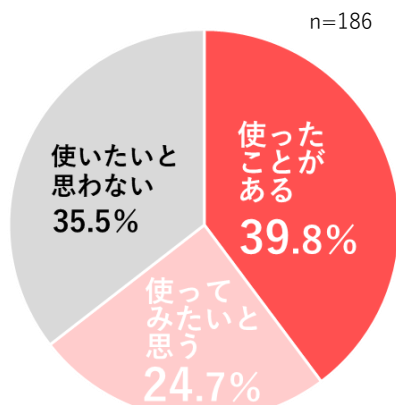
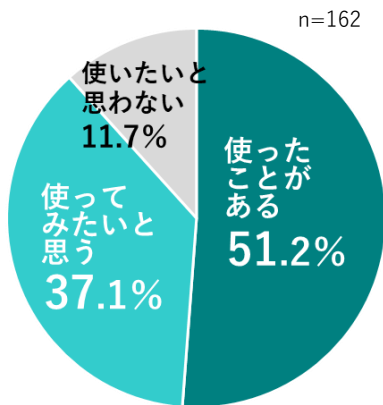
岡原先生

<アダルトグッズの経験率と使用意向>

Q. アダルトグッズを使ったこと・使いたいと思ったことはありますか？

【男性】

【女性】



※その他の性別は回答者に含まれません

男性の約9割が「アダルトグッズを使ったことがある・使ってみたい」と答え、女性も6割以上が同様の回答でした。

また、アダルトグッズの利用経験がある方のうち、64.4%が使ってみて「良かった」「まあ良かった」と答え、ポジティブな回答が目立ちました。



TENGA広報
原田

今回の調査で「アダルトグッズを使ったことがある」と回答した人は、男性は51.2%、女性は39.8%。TENGAが過去に実施した世界調査^{※7}での日本人のアダルトグッズ使用率（男性31.5%、女性20.7%）よりも、高い割合となりました。ちなみに、世界調査での男性トップはドイツの36.1%でしたが、身体障がいのある男性の使用経験率は、それを約15%上回っています。また、女性トップのイギリス52.1%には及びませんが、女性の使用経験率も世界的に見ると上位国と同等の割合となっています。

※7 株式会社TENGA『TENGA Global Self-Pleasure Study 2018 report』にて行った調査（2018年、対象：18カ国、n=13,039）



岡原先生

■アダルトグッズの利用経験率の高さ

まずこの数値の高さは、「ネットで手に入れられるようになった」という要因も大きいでしょう。また、医療機器とまでは言いませんが、「アダルトグッズは、自分のケア・サポートのために必要なもの」と解釈して使っている方も少なくないかもしれませんね。

■身体障がいのある方に聞いた性のリアルボイス

Q. セックスやマスターベーション（セルフプレジャー）をするために、どのような補助具があれば使いやすいと思いますか？

20代前半男性
半身麻痺
後天性
障害者手帳2級

麻痺の手で握れないので手とアダルトグッズを固定出来るバンドが欲しい。

40代前半女性
下肢,体幹,ぼうこうま
たは直腸
後天性
障害者手帳2級

体位を保てるクッション等が欲しい。

20代後半性別無回答
下肢
後天性
障害者手帳4級

臀部の感覚がほぼ無く何か漏れていたり分からないのでシーツを汚さないマットまたはタオルのようなものがあれば安心。

Q. 恋愛や性についてしてみたいことや知りたいこと、不自由を感じることや悩み事などがあれば、どんなことでも良いので教えてください

20代後半女性
上下肢
先天性
障害者手帳1級

機能的にも見た目にも自分の体にコンプレックスがあり、恋愛に積極的になれない。

20代後半女性
上肢,下肢,体幹,音
声,言語またはそしゃく
後天性
障害者手帳1級

死ぬまでにセックスをしてみたい。

30代前半男性
上下肢,体幹
後天性
障害者手帳1級

コンドームを自分でつけられない。

20代後半女性
上下肢,体幹,視覚,
心臓,ぼうこうまたは直腸,
免疫機能,高次脳機能
後天性
障害者手帳1級

介助者に頼みづらい、誰に相談していいかわからない。



岡原先生

■性の悩み・リクエストについて、介助者にどう伝えるのがよいのか？

例えば重度障がいの方の介助の場合、「トイレの介助方法」「体位交換の頻度」「掃除の頻度・範囲」など、何をどのように介助してほしいかのすり合わせを事前に行うのが一般的です。

性的なサポートについても、「グッズの購入代行」などを含め、**その都度その都度要望を伝えるのではなく、カウンセリングシートのような形で事前に出し、介助者側も、このリクエストには応じられる／これには応じられないと、すり合わせ**ができるような環境を整えられると良いのではないのでしょうか。

Q. あなたが「セックスしたい」と思っていることや、性体験を得ることについて、社会や世間、自分の家族からはどのような反応がありましたか？

50代前半女性
上下肢,体幹,ぼうこう
または直腸
後天性
障害者手帳1級

障がい者(身体不自由)は性行為をしない、出来ないという認識の方が多く、驚かれる。

20代後半性別無回答
下肢
後天性
障害者手帳4級

障がい者は聖人のように扱われることもあって性がタブーなイメージで話される。



岡原先生

■なぜ、障がいのある方は性的欲求がないと思われがち？

一般的に、「障がい＝病気の状態」と考えている方が多いようです。これは今も昔も変わらず、病気＝療養中の状態と無意識に捉え、療養中の人には性欲はない、性行為とは結びつかないと考えてしまうようです。障がいのある方は、ケガや病気で入院していることもあります。障がいと病気はイコールの関係ではありません。

その考え方を変えていかなければ、障がいのある方への性の偏見はなくなると考えています。

30代後半女性
上下肢
後天性
障害者手帳2級

両親が過剰に男性と繋がりがあことを嫌い、スカートも履けないような過干渉なので困っています。友人とは普通に話しています。せめて、好きな人とハグくらいは自由にしたいです。

30代前半女性
上下肢,体幹
先天性か後天性かは不明
障害者手帳1級

家族からは初めての彼氏ができたときに嫌な顔をされた。



岡原先生

■なぜ、障がいのある子どもの恋愛や性的欲求は親から嫌厭される？

障がいのあるなしにかかわらず、そもそも恋愛や性について親子で話し合うことは少ないと思いますので、障がいのある方ならではの意見ではないかもしれません。ですが、親御さんからしてみれば、望まない妊娠をしてしまうのではないかと、相手を妊娠させてしまうのではないかと、子どもが生まれたら自分で育てられるのかなど、さまざまな心配事が浮上ってしまうのは当然です。しかし、**お子さんが恋愛や結婚をする権利を剥奪することはできません。**親御さん自身も、障がいをお持ちのお子さんが健常者と同じように恋愛や性について悩んでいることを理解し、コミュニケーションを積極的にとることが、本来大切なことだと考えています。

40代前半女性
上下肢,体幹
後天性
障害者手帳1級

ただ体が動かないというだけであって心は健常者と何も変わらない同じ人間なので、したいと思うのは当たり前だね、と共感してくれる人も何人もいた。

20代後半女性
体幹,音声,言語またはしゃく,呼吸器
先天性
障害者手帳1級

私の周りには、自然に思うよねー！当たり前じゃんという反応でした。そこに障がいがあるなしは関係ないとのことでした。

【お話を伺った先生】

岡原 正幸（おかはら まさゆき）先生

慶應義塾大学文学部教授。

1957年生まれ。80年慶應義塾大学経済学部卒業、87年同大学院社会学研究科博士課程修了。

専門は障害学、感情社会学。著書編著に『アート・ライフ・社会学』『感情資本主義に生まれて』、

共著に『感情の社会学』『生の技法』、訳書に『地位と羞恥』（S・ネッケル著）がある。



障がいがある方は、健常者に比べて、日々不便や生きづらさを感じながら、生きる上で発生するさまざまなことに向かい合わなくてはならない機会も多いでしょう。積極的に情報を収集し、自分の行動への責任や、自分の希望するものを手に入れるための最も適切な方法を考える積極性がないと、自分の望む状況が手に入らないのです。

そういった意味で、障がいがあるの方が、健常者よりも、ご自身のセクシャルウェルネスについて切実に向き合わざるを得ず、その分、真摯に性について考えていると言えるのではないのでしょうか。

障がいがある方は常に今の社会に対する問題点を考えていて、恋愛や性に対してさまざまな課題があることも調査から見えてきました。

このようなアンケート調査を行うことで、一般社会へ意識変容へのインパクトを与え、一般社会に広く知られることで、少しずつ障がいをお持ちの方への偏見がなくなり、恋愛や性に関する悩みの解決の糸口になればと考えています。

調査概要

「障がい×性・恋愛に関する調査」

[調査主体] 株式会社TENGA

[調査方法] インターネット調査

[調査対象] 身体障がいのある354人

[調査期間] 2022/10/25（火）～2022/11/6（日）

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない場合があります。

身体障がいの種類

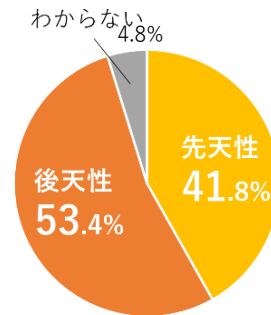
部位	%
上肢	12.2%
下肢	63.8%
上下肢	33.3%
体幹	25.4%
視覚	8.2%
聴覚	13.8%
音声、言語またはそしゃく	4.2%
心臓	3.4%
腎臓	2.3%
ぼうこう、または直腸	10.2%
小腸	1.7%
肝臓	0.3%
呼吸器	5.1%
免疫機能	3.1%
平衡機能	1.4%
その他※複合障がいでも答えた分も含む	4.2%

※複数障がいがある方は複数回答しているため合計は100%になりません

身体障がいの等級

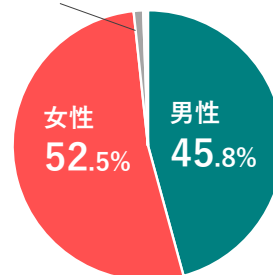
等級	%
障害者手帳1級	38.4%
障害者手帳2級	21.8%
障害者手帳3級	15.3%
障害者手帳4級	7.3%
障害者手帳5級	7.3%
障害者手帳6級	3.1%
障害者手帳7級	0.6%
持っていない	4.5%
わからない	1.7%

障がいが先天性か後天性か



性別

答えたくない 1.1%
Xジェンダー 0.3%
トランスジェンダー 0.3%



▶ 本件に関するお問い合わせ先

月刊TENGA 広報事務局 | 株式会社パブリックグッド内

TEL : 03-6416-3268 / FAX : 03-6416-3269 / MAIL : tengapr@publicgood.co.jp 担当 : 片倉、森下



株式会社TENGA
マーケティング本部
国内マーケティング部
原田樹

今回調査を行った「障がいがある方の恋愛・性」については、表通りに語ることが許されない風潮が根強く存在してきました。今回お話を伺った岡原先生によると、こういった世間の風潮は、数十年前から現在まで、ほぼ変化がないのだそう。この認識を変えていくためには、今後も継続的に情報発信していくことが重要であることを改めて感じました。

TENGAでは今年、障がいがある方の自立を支援する「able! project」を始動しました。今後「able! project」では、「性を表通りに、誰もが楽しめるものに変えていく」というビジョンのもと、障がいをお持ちの方が気軽に相談できる性の相談窓口を設けていきたいと思っております。

本レターでは身体障がいをお持ちの方にフォーカスして調査を行いました。今後TENGAでは知的障がいや精神障がいなど、他の障がいについても情報を集めていきます。「able! project」などを通じて、これからも支援活動や情報発信を行っていくことで、当事者の悩みの解決の糸口や、偏見の解消を目指していきたいです。

Pick Up News

■ able! projectオリジナルのTENGA「able! TENGA」を発売

2022年10月、障がいのある方への支援プロジェクト「able! project」から、「able! TENGA」が発売されました。

「able! TENGA」は、able! FACTORYで働く障がいのある方が、パッケージフィルムを巻く工程を行うことで完成する、able! projectオリジナルのTENGAです。皆さんが1つ購入してくださるごとに、全国の障がい者支援施設などに100円が寄付されます。パッケージのアートは、障がいのあるアーティスト・山野 将志（やまの まさし）さんの作品をご提供いただきました。本プロジェクトでは、今後も障がいのある方のアート作品を活かした製品を制作することで、アーティストをサポートしてまいります。

詳細ページURL：<https://able-project.com/report/864/>



■ 障がいによってTENGA、irohaが自分で使用できない方に向けた「カフ（補助具）」

TENGAは、障がいがあり自らの手でマスターベーションができない方にも、より快適なマスターベーションを楽しんでいただくための活動を推進しています。

その一つにTENGA用、iroha用のカフ（補助具）があります。共に活動している作業療法士の方と共同で、手に障がいがある方や握力の弱い方でも、簡単にTENGAを使用していただけるよう開発しました。また、身体障がい者のセクシュアリティに関する支援を行っている団体「特定非営利活動法人ノアール」さんのサポートも行っています。

実際に障がいのある方と共に、TENGAを使ったSOM（サポートオブマスターベーション）について議論、研究を重ねています。身体の障がいや、高齢による握力低下などで、マスターベーションにストレスや、やり辛さを感じている方は、是非ご相談下さい。

詳細ページURL：https://tenga-group.com/company/csr_support.html



月刊TENGA

は、TENGAの製品やニュースだけでなく、性にまつわる様々な情報を定期的に提供するニュースレターです。

“面白おかしさ”を大切にしつつも、性と真正面から向き合い、真面目に作り続けてきたTENGAだからこそ発信できる、硬軟様々な情報を届けます。様々な文献や歴史、そして人物、市場情報など多様なリサーチと開発を継続し、皆様により意義と価値のある情報を提供できればと考えています。性に関するストレスが少しでも軽減されたり、親しい誰かに相談するきっかけを作ったりと、性の悩みを和らげられる社会づくりへの貢献をめざします。

月刊TENGA バックナンバー

<https://www.tenga.co.jp/topics/category/g-tenga/>

TENGA 公式オンラインストア <https://store.tenga.co.jp>

TENGA コーポレートサイト <https://tenga-group.com>

画像ダウンロード用URL https://drive.google.com/drive/folders/1KSTHEYI40scwgmI9tS7Q_q7zTM5tNcARh?usp=sharing

▶ 本件に関するお問い合わせ先

月刊TENGA 広報事務局 | 株式会社パブリックグッド内

TEL：03-6416-3268 / FAX：03-6416-3269 / MAIL：tengapr@publicgood.co.jp 担当：片倉、森下